

オリコンサルHD創立20周年



オリエンタルコンサルタンツを中核とするグループは、持ち株会社体制への移行から8月で20年を迎えた。オリエンタルコンサルタンツホールディングス(HD)は、多彩な事業会社を束ねながら、計画から施工監理まで一貫してプロジェクトに携わる強みを武器に、従来の枠を超えた新分野に挑戦している。2030年9月期を最終年度とする中期経営計画では、連結売上高1100億円（25年9月期業績予想948億円）を掲げ、成長の軌道を明確に描いている。

建設コンサルの枠を超えた新分野に挑戦

AI交通システム

公園の指定管理者

海外ではエビ養殖に参画

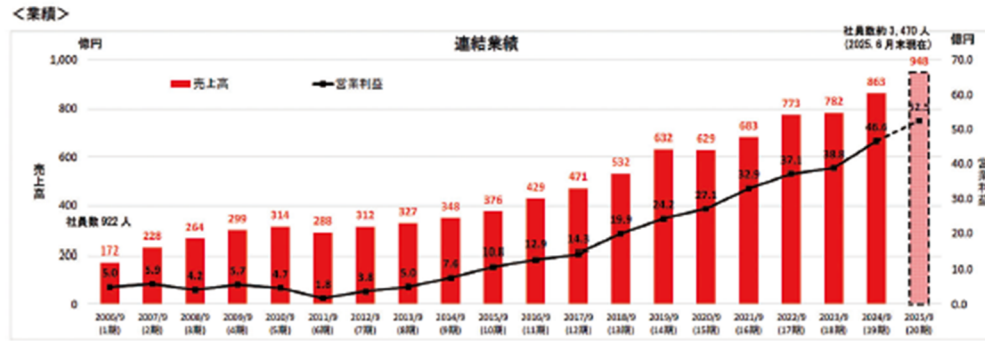
地域電力会社設立も視野

オリコンサルは「社会価値創造企業」として、建設コンサルタンの枠にとどまらない事業を展開している。奈良県の田原本町、川西町、三宅町と連携し、3町の情報共有基盤を構築する「複数基礎自治体の広域連携によるネットワーク型インフラ包括的民間委託」を提案。ICTを活用

同社は創立記念日の8月29日に、都内で20周年記念式典を開催した。野崎秀則社長は「各社が取り組みを共有し合い、社員一人一人の成長につなげてほしい」と出席した役員に語りかけた。グループ各社は「自律した事業会社」としての意識を高め、技術や知見、ノウハウを相互に共有することで、シナジー（相乗効果）を最大限に引き出し、次代に向けた持続的な発展を目指す方針を確認した。



野崎社長



HD化から20年、着実に伸ばしてきた業績を売上高1100億円につなげる（オリコンサルHD提供）

30年9月期 連結売上高1100億円目指す

「第5回脱炭素先行地域」になる見通しだ。選ばれた。グループは、27年度までに複数の地域新電力会社、地域電力会社設立も視野に入れ、計画を具体化していく。さらに、多気町と明和町が進めるAIデマンド交通システムや、地域通貨「美村PA」の活用にも参画し、持続可能な地域づくりを後押ししている。

海外では、オリエンタルコンサルタンツグループが中心的な役割を担っている。ブラジル・パソフンド市では、世界初のオンサイト・グリーンアンモニア事業に着手した。再生可能エネルギーによって発電し、その電力で水を電気分解して得た水素と窒素を合成し、グリーンアンモニアを製造する。脱炭素の実現に加え、同国の食料安全保障や地域雇用の創出にも貢献している。

中期経営計画は、順調に進捗している。グループは25年9月期の連結業績予想を8月に上方修正し、売上高を前回予想の870億円（24年11月時点）から948億円に引き上げた。国内では、防災・減災分野のハード・ソフト対策業務に加え、道路・河川・港湾といったインフラ分野の受注が堅調に推移。海外では、開発途上国におけるインフラ需要の高まりが収益を押し上げている。

野崎社長は「計画から設計、施工監理まで一貫して担える『グランドデザイン力』を生かし、事業を着実に前進させていく」と述べ、確かな成長戦略を打ち出した。

オリコンサルHDの事業会社は次の通り（8月29日時点）。

- ▽オリエンタルコンサルタンツ▽オリエンタルコンサルタンツグループ▽アサノ大成基礎エンジニアリング▽中央設計技術研究所▽エイテック▽リサーチアンドソリューション。



23年11月に開業した体験型研修宿泊施設「そらすな」（報道発表資料から）

「グランドデザイン力」生かし一貫して事業推進